

記者発表 (発表・資料配布)				
月/日 (曜日)	事務所等名	電話	発表者 (担当者)	配布先
8/27 (木)	県立農林水産技術総合センター (病虫害防除所)	0790-47-1222	病虫害防除所長 (神頭 武嗣)	県庁記者クラブ 北播磨県民局

**令和2年度病虫害発生予察注意報 第3号**  
**「トビイロウンカの防除対策」について**

兵庫県立農林水産技術総合センター（病虫害防除所）が8月中旬に実施した病虫害発生予察調査において、県下全域でトビイロウンカの発生が確認されており、発生圃場率は、過去に注意報、警報を発表した平成26年とほぼ同等です。今後、適切な防除対策について、関係機関から生産者への指導を促すため、下記により「病虫害発生予察注意報 第3号」を発表します。

記

- 1 対象作物 水稻（普通期栽培：ヒノヒカリ、山田錦等）
- 2 病虫害名 トビイロウンカ
- 3 発生地域 県内全域
- 4 内容 詳細は別紙「注意報 第3号」のとおり

兵庫県立農林水産技術総合センター（病虫害防除所）は、農作物を加害する病虫害の発生状況を調査するとともに、その後の発生を予測し、普及指導員やJAの営農指導員等に「予察情報」として提供しています。また、農業生産現場から持ち込まれた病虫害の診断も行っています。

(電子メール施行)  
農 技 第 1215 号  
令和 2 年 8 月 27 日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報注意報第 3 号を下記のとおり発表します。県下全域でトビイロウンカの発生が確認されています。圃場<sup>ほ</sup>で発生状況をよく観察し、適切な防除のご指導をお願いします。

令和 2 年度 病害虫発生予察注意報 第 3 号  
トビイロウンカの防除対策について

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1 対象作物       | 水稻（普通期栽培：ヒノヒカリ、山田錦等） |
| 2 病害虫名       | トビイロウンカ              |
| 3 発生地域       | 県内全域                 |
| 4 発生程度       | 多                    |
| 5 発生時期       | 8 月下旬～水稻収穫期          |
| 6 発生状況と今後の予想 |                      |

- (1) 本種の今年度の発生では、6 月下旬に長翅型成虫（P. 3 資料写真 1）が圃場<sup>ほ</sup>において初確認されている。病害虫防除員による 8 月上旬の調査では、長翅型成虫が確認されており、発生圃場率は 9.7% (7/72 圃場) であった。
- (2) 8 月中旬に当所が実施した調査では、成・幼虫が確認され、発生圃場率は 77% (48/62 圃場) と県内全域で発生が見られている。発生圃場率は昨年（33%：8 月下～9 月上旬）と比較して高く、過去に注意報・警報を発表した平成 26（2014）年（77%：8 月下旬）と同等である。
- (3) 発生密度は、成・幼虫 0.8 頭／10 株で、昨年（0.2 頭）より多い。そのほとんどが成虫で、成虫の半数以上（56%）が短翅型の雌成虫（P. 3 資料写真 2、増殖型で産卵数が多い）であった。
- (4) 現在、発生虫の齢構成は、飛来次世代虫（第 1 世代虫）の成虫が中心と考えられる。今後 8 月下旬から 9 月上旬にかけて第 2 世代幼虫の出現が予想されるが、一部の圃場では既に第 2 世代幼虫（P. 3 資料写真 3）が見られており、発生が早く進行する場合もあると考えられる。
- (5) 発育シミュレーションによると、9 月下旬から第 3 世代虫の出現が予想され、それ以降に収穫期を迎える普通期栽培の水稻では、「坪枯れ」（P. 3 資料写真 4）が生じる可能性が高い（P. 2 図）。

## 7 防除対策について

- (1) 「きぬむすめ」、「山田錦」、「ヒノヒカリ」等の普通期栽培品種では、収穫が10月上旬以降となるため、発生状況に応じた防除対策を行う。特に、これまで一度も防除を実施していない圃場や、苗箱処理剤のみの圃場では早い時期から「坪枯れ」が生じる可能性が高い。
- (2) 本種の雌成虫および幼虫は株元に生息しているため、発生状況を確認する場合は、圃場内の少なくとも3カ所（計100株）以上で、株元の払落しや株元をかき分けての観察調査が望ましい。
- (3) 今後、8月下旬から9月上旬にかけて第2世代幼虫の発生が予想されるが、卵期の薬剤散布は効果が期待できないので、幼虫の出現を確認してから実施することが望ましい（図）。普通期栽培の場合、8月下旬から9月上旬における要防除水準は、成・幼虫2頭/株以上である。
- (4) 無人ヘリ等による散布では薬液が株元に到達しにくいいため、十分な効果が得られないことがある。トビイロウンカに対しては、薬剤が株元まで届くような薬剤の選定と処理方法に配慮する。粒剤を使用する場合は、処理後の湛水状態を少なくとも数日間保つようにする。粉剤、液剤を使用する場合は、薬剤が株元に十分到達するよう散布する。
- (5) 収穫期に近いタイミングでの薬剤散布になる可能性があるため、使用薬剤の収穫前日数をよく確認すること。防除薬剤は兵庫県農薬情報システム等を参考に、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

月	8			9						10					
半旬	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
世代	第2世代 卵期		第2世代 幼虫期			第2世代 成虫期		第3世代 卵期		第3世代 幼虫期					

設定条件：発育ゼロ点 12.0 度，発育上限温度 28.0 度，発育停止温度 33.0 度，有効積算温度 100 日度/成虫期間，109.4 日度/卵期間，188.6 日度/幼虫期間

気温データ：神埼郡福崎町アメダスポイント平年値（8月22日までは今年度の実測値を使用）

### 図 発育シミュレーションによるトビイロウンカ世代推移の予想

第2世代虫の発生は8月6半旬から9月上旬と予想される。坪枯れを起こす第3世代虫の発生は9月6半旬以降と予想されるが、今後気温が平年より高く推移した場合には、第3世代虫の出現が早まると考えられる。

[トビイロウンカ資料]



写真1 雌成虫 (長翅型; 体長4~5mm)



写真2 雌成虫 (短翅型; 体長3mm、翅が短く、卵で腹部が肥大)



写真3 水稻株元に群生する幼虫



写真4 被害 (坪枯れ)

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。[\(http://hyogo-nourinsuisangc.jp/\)](http://hyogo-nourinsuisangc.jp/)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222